marketpress.jp

証券市場新聞

1　第181号

2019
6/3
月曜日

発行元　株式会社 証券市場新聞社
〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C
TEL 06-6105-1904　FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

日経平均株価
２万０６０１円１９銭
▼３４１円３４銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１５１２．２８
▼１９．７０（前日比）

軽量ながら知名度高い

「IPO夏の陣」狙える銘柄は

３月期決算発表が一巡し、次の関心は再びＩＰＯ（新規公開株）に向かいそうだ。出口の見えない米中貿易戦争によるリスク回避の円高進行で、輸出系を中心とする主力株から外部要因に左右されない新興の中小型株がより選好される地合いになっている。そうしたなか夏の陣ともいえる今回のＩＰＯは昨年暴落時のソフトバンクのような大型ＩＰＯはなく、軽量級ながらある程度地名度が高い銘柄が揃っており、セカンダリーにも格好の物色対象になりそうだ。

第二のACSLを探せ

ＩＰＯに関しては、一の抽選で落選しても、ブックビルディング（成長性が評価されれば、上場後の○○が得られるのが魅力だ。その代表例が昨年１２月２１日に上場した**自律制御システム研究所**（ＡＣＳＬ・６２３２）。地合い悪から初値は公開価格３４００円割れの２８３０円となったが、５月２１日には５４３０円の最高値を更新した。

夏のIPOは知名度が高い銘柄が揃う

一方、３月１９日公開の**ミンカブ・ジ・インフォノイド**（４４３６）は初値こそ公開価格１０５０円を上回る１４００円ながら、５月２２日には公開価格割れとなる１００５円を付けており、目先のならず中期的視点でも最初の銘柄選択が極めて重要視される。

そのようななかで、今回は５月３０日に上場した**バルテス**（４４４２）から６月２８日の**リビン・テクノロジーズ**（４４４５）まで１２社が公開。そのなかでは、法人向け名刺管理サービス「Ｓａｎｓａｎ」を手掛ける**Ｓａｎｓａｎ**（４４４３、６月１９日公開）や化粧品や健康食品、医薬品を展開する**新日本製薬**（４９３１、６月２７日公開）がＴＶＣＭによれる知名度からも話題を集めそうだ。

この他ではクラウドホスティングサービスの**インフォネット**（４４４４、６月２５日公開）やＷｅｂテクノロジーと不動産を融合した不動産会社比較を行う**リビン・テクノロジーズ**（４４４５・月２８日公開）に注目したい。

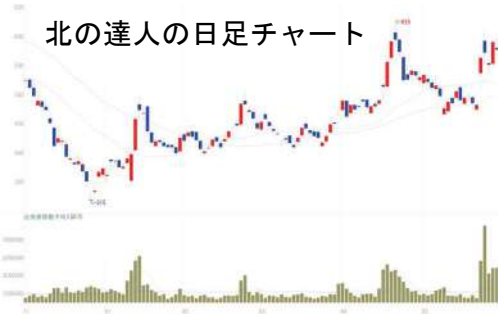
日経平均日足チャート

今週の動意銘柄

北の達人ストップ高

予約待ち3万人超のヒット商品

週明け27日、**北の達人コーポレーション**（2930）がストップ高。刺すヒアルロン酸化粧品「ヒアロディープパッチ」が累計販売数約100万枚の爆発的ヒットを記録し、予約待ち人数が3万人超となっていることを好感した。美容成分をより浸透させる方法を探し続けてたどり着いた化粧品。高濃度ヒアルロン酸を含む美容成分を小さな針状に凝縮し、肌に刺すことで角質層まで直接届ける。



キタック2Q上振れ

27日、**キタック**（4707）がストップ高。19年10月期第2四半期累計の業績を、売上高で17億5400万円から20億100万円（前期比31・0％増）へ、営業利益で2億5800万円から4億1200万円（同55・5％増）へ上方修正した。前期からの繰越業務に加えて原価低減が利益を押し上げている。

トーセはドラクエで思惑

28日、**トーセ**（4728）が一時ストップ高、**スクウェア・エニックス・ホールディングス**（9684）も値を飛ばした。スクエニがスマホ向け「ドラゴンクエスト」新作発表会を6月3日開催することを材料視。トーセは過去に「ドラゴンクエスト」の開発を担当していたことから思惑買いを誘った。新作発表会には総合司会に徳光和夫、ゲームデザイナーの堀井雄二氏が参加することから大作との期待が高い。

ガンホー出尽くし感

28日、**ガンホー・オンライン・エンターテイメント**（3765）が急落。スマホ向けオンラインRPG「ラグナロクマスターズ」の日本国内サービスを年内に開始すると発表した。同ゲームは日本を除く世界各国で配信され、全世界で2400万ダウンロードを突破したヒット作。ただ、国内サービス開始の正式発表をが当面の材料出尽くし感につながった。

ログリ4月予想上回る

27日、**ログリー**（6579）がストップ高。4月度は売上高1億9700万円、売上総利益3800万円と、予測値の売上高1億8300万円、売上総利益3000万円を上回った。審査済み広告差し替え対策の影響が収束する。

日産業績押上げ期待

28日、**日産自動車**（7201）が続伸。フィアット・クライスラー・オートモービルズがルノーに両社の株主が株式の50％ずつ握る経営統合を提案したことで、統合による業績の押し上げ効果を期待した買いが向かった。**三菱自動車**（7211）も買われた。

ダイヤHD株式交換

29日、**ダイヤモンドエレクトリックホールディングス**（6699）が一時ストップ高まで買われた。同社を株式交換完全親会社として**田淵電機**（6624）を完全子会社にすることを引き続き好感。株式交換により東証の上場基準を満たした場合、10月1日付けで一部に指定される。

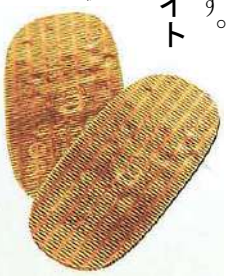
正直じいさんの株で大判小判

雇用統計控え様子見継続

週末5月31日の東京市場は大幅に3日続落しました。トランプ米大統領がメキシコへ輸入関税を課すと表明したことから通商問題への警戒感が強まり、108円台に進んだ円高や時間外の米株価指数先物安、中国製造業PMIの悪化も重しになりました。売り一巡後は下げ渋る場面もありましたが、後場からは売り直されるなど、展開で、悪い流れを断ち切れていません。下げが加速する場面では、これまでトランプ大統領がポジティブなツイート行うことで下げ止まる場面があり市場は具体的な米中関係打開の動きを期待しており、多少の発言では流れを変えるのは厳しいかも知れません。7日には米雇用統計も控えており、様子見気分は継続しそうです。

新値をとってきた**エイトレッド**（3969）を買い直しました。銘柄を絞り込んで慎重に対応する考えです。

花咲 翁



サクサは値上りトップ

20年3月期33％営業増益

29日、**サクサホールディングス**（6675）が急伸、東証1部値上がり率トップに立った。20年3月期の業績予想を発表。連結売上高410億円（前期比3・3％増）、営業利益25億円（同3・0％増）と大幅な増益を見込んだことが材料視された。継続して事業改善を進める方針という。

ライトオン大幅減額

29日、**ライトオン**（7445）が急落、年初来安値を更新した。19年8月期の業績予想について、連結売上高で770億円から745億円（前期比6・6％減）へ、営業損益で1億円の黒字から26億円の赤字（前期12億200万円の黒字）へ大幅に下方修正。ゴールデンウィークの販売は苦戦、前年から持ち越した販売不振商品について、夏のバーゲンでの販売計画を大幅に見直した影響がでている。

企業観察　ハリマ化成G（4410）

還元強化で下値硬直性

ハリマ化成グループ（4410）は戻り高値1197円を付けてから調整局面にあるが、4ケタ割れ水準で下値硬直性を発揮している。業績は堅調でPERは8倍割れ、3・8％という高配当利回りが株価を支えており、今後の業績次第で大幅な上値が期待できそうだ。

20年3月期は連結売上高830億円（前期比5・6％増）、営業利益47億円（同0・7％増）を見込んだ。19年3月期は計画を上振れ16％超の営業増益で着地するなど発射台が高く、米中貿易問題や中国経済の減速など事業環境も織り込み、保守的に見積もった。ただ、新中期計画に沿った拡大戦略を進めることで、増収営業増益を確保できると見る。

保守的も増収営業増益見込む

中国山東省の新製紙工場は1月の立ち上がりから順調、持分法会社化したサンパイン社が通期収益貢献するうえ、サンパインと連携してローター社がシェアを拡大しており、期初計画は上積みが期待できる。前期の大幅増配に続き年間配当を38円（前期36円）へ連続増配を予定することにも計画達成への自信がうかがえるが「DOE（株主資本配当率）を基準に安定配当とする」（会社側）としており、還元もさらに強化の方向。

オプティム特許材料視

30日、**オプティム**（3694）が急伸。コンテナ技術をアプリケーション配信手段とする実行基盤に関する特許を保有すると発表したことが材料視された。アプリケーションとライブラリ、ミドルウエアなど実行環境をまとめたコンテナイメージを連携システムに配信・起動する技術で、利用者はアプリケーションとともに必要な実行環境も入手でき、導入・運用が容易になるという。

触媒と三洋化は統合

30日、**日本触媒**（4114）と**三洋化成工業**（4471）が急伸。経営統合を検討することで合意したと発表した。紙おむつなどの原料の高吸水性樹脂事業の競争力を強化することが目的で、20年10月に株式移転により統合持株会社を設立、持株会社が東証1部に上場し、両社は上場廃止となる。

転ばぬ先のテクニカル

急落接近

5月相場が終わりましたが結果的にSell in Mayとなりました。月足は陰線形成で12カ月線、24カ月線を下回りリバウンド終了の印象です。週足も4週続落となり、26週線を割り込みました。31日の日足は5月14日のザラ場安値を割り込みました。これで4月24日の戻り高値以降の下落が二段下げとなりました。

先週は日経平均の週足のパラボリック陰転とMACD（12、26）のデッドクロスが同時に起きました。2015年以降の相場においてこの同時発生は2015年12月28日、2016年6月13日、2018年1月29日、10月15日と4回ありました。その後、短期急落となり、最小1067円幅、最大3921円幅、平均2779円の下落です。達成までの日柄は最短9日、最長50日、平均31日という結果です。急落接近につきヘッジ売りが必要です。

日々勇太朗

レアアース関連高い

中国輸出規制検討で思惑

30日、アサカ理研（5724）がストップ高に買われたほか、DOWAホールディングス（5714）や大阪チタニウムテクノロジーズ（5726）、フルヤ金属（7826）、イボキン（5699）などレアアース関連銘柄が高い。中国が米国への対抗措置としてレアアースを輸出規制するとの思惑から引き続き買いを集めた。レアアース関連ETFのヴァンエック・ベクトル・レアアースも大幅に上昇した。

公開価格の2・8倍

バルテスの初値

種末31日、前日に東証マザーズ市場に新規上場したバルテス（4442）が公開価格660円の2・75倍となる1820円で初値をつけた。ソフトウェア―テストを中心に総合品質サービスを提供。

企業観察　アズワン（7476）

海外など3本柱で成長加速

アズワン（7476）は5月28日に大阪市西区の本社で決算説明会を開催、井内卓嗣社長＝写真は「eコマース、海外事業、新規商材の3本柱で成長を加速し、売上高1000億円を目指したい」と攻めの経営に意欲を見せた。

20年3月期については連結売上高715億円（前期比7・2％増）、営業利益88億5000万円（同17・0％増）、純利益62億5000万円（同18・7％増）と売上高では中期経営計画「NANA20」の当初計画70億3000万円を上回る計画を立てている。eコマースでは大手通販との販売連携強化や新規通販業者の開拓・育成などを進め、海外では中国での地場商品強化や有力代理店との取引強化に加えてベトナムやフィリピン・タイ・シンガポールなど東南アジアや米国現地法人での取り組みも強化する。これに加えて、入出荷工程の70％自動化を実現する千葉市の新物流拠点（20年5月稼働予定）も大きな武器になりそうだ。

売上高1000億円達成に意欲

企業レター

「店舗アプリ」の販売開始

アプリックス

新しい顧客開拓とサービス提供

店舗アプリの実用例

アプリックス（3727）は、O2Oプラットフォームの企画・設計・開発・運用を行うトランスメディアGP（福岡市）の販売代理店・OEMデベロッパーとして、同社の店舗向けアプリ制作サービス「店舗アプリ」を6月から販売を開始した。

「店舗アプリ」は店舗情報やクーポン、スタンプ、イベント告知、アンケートの実施、プッシュ通知などの多彩な機能を基本機能とするトランスメディアが提供する製作サービス。様々な店舗向けに利用者の規模・業種に合わせたブランディングデザインを行い、独自性の高いアプリを提供することができるため、これまでのIoTソリューションの提供で培ってきたアプリックスの技術を組み合わせることで新たな顧客層の開拓やサービスなどを提供、3年間で1000件の販売を目標にしている。

JDI追加支援策固る

31日、ジャパンディスプレイ（6740）が急伸。筆頭株主のINCJ（旧産業革新機構）から追加金融支援について、持分法関連会社のJOLEDの全株式をINCJに売却すると発表したことがポジティブ視された。米アップルも返済一部繰り延べに応じるもようで、台中3社連合の金融支援決定の可能性も高まった。

今週の動意銘柄

マツダはメキシコ関税

31日、マツダ（7261）が急落。トランプ米大統領がメキシコからの全輸入製品に5％の関税を課すとツイートした。自動車セクターのなかでもメキシコの生産比率が高く、影響が懸念された。

潮流

レアアース危機は起らない

非効率なマーケットを逆手に！

marKet bAnk

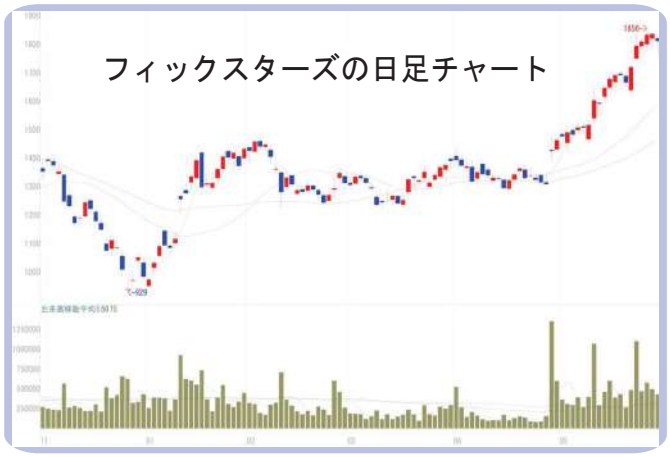
中国が電気自動車（ＥＶ）やデジタル家電に欠かせないレアアース（希土類）の対米輸出の規制を示唆したことで株式市場は不透明感を増している。

レアアースといえば、２０１１年に中国政府がレアアースの輸出枠を大きく引き締めたことで、レアアース（ディスプロシウム、ネオジム）の価格が暴騰した記憶が思い起こされる。しかし、今回はそれほど大きな混乱は起こらないだろう。なぜならレアアース原単位は大きく減少し、レアアースのリサイクルにより内製化比率が上昇している。また、中国国内に製錬設備を保有するメーカーも増加した。レアアースの価格高騰での対応が企業にできているからだ。ヘッジファンドは不安を煽り、株式市場に仕掛け的な売りを浴びせ、下落したところで買いを入れるといった手口は常套手段だ。

日本の株式市場はヘッジファンドによるシステムトレードとインデックスファンド、それに派生したデリバティブ取引の活発化により、非常に非効率なマーケットになっている。なぜなら、マーケットを構成している個々の証券の効率性が、こうしたファンドの割合が大きくなるにつれて低下するからだ。個々の証券の効率性が担保されて初めて全体の効率性も担保されるのである。個人投資家が積極的な投資を手控えている状況で、マーケットが効率性を担保できているはずがない。

だから、昨年から異常な下落や、その後に弱気派の予想を裏切るようなリバーサル相場が発生するのである。一方、この非効率な全体のマーケットを逆手に取ることで、個人投資家にもチャンスを得る機会が与えられることを忘れてはいけない。２０１５年から度々発生している急落相場が常に買い場だったことを思い出せば、この手の下落はリスク・オフでも、経済懸念でも何でもなく、単に個人投資家にとっては投資の好機を提供してくれているだけなのだ。米国金利の低下・低インフレ・低成長は、ゴルディロックス経済の再来という。完全雇用に近い米国では中国との貿易問題が経済危機に繋がることはない。金利の低下・低インフレ・低成長は日本も同様だ。特に日本は過剰流動性が維持されており、株式市場に危機が起こることはないのである。

潮流銘柄は**フィックスターズ**（３６８７）、**メンバーズ**（２１３０）、**ラスク**（３９２３）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

日本は過剰流動性維持

需給は水面下で改善

下落局面は絶好の買い場

光世証券
取締役 西川 雅博 氏

週末は久しぶりにリスクオフの動きが強まったが、懸念材料を織り込むスピードは従前よりも早くなっている。投資家心理が変わるには、米中貿易交渉の劇的な展開といったサプライズが必要だが、バリューと需給面からここからの下値は限定的。投資家に底値感が台頭しないのは、個別銘柄の下落率に較べて2万1000円前後に留まる日経平均の水準が影響しているかもしれない。ファーストリテなど一部値がさ株の寄与で、NT倍率は過去2年間上昇を続けてきた。現在のTOPIXと同水準だった2017年3月頃の日経平均は1万9000円前後である。そうしたギャップに加え、「ファーウエイ排除」など米中貿易摩擦に関する過激なやりとりがクローズアップされ、投資家心理は実体以上に委縮している。

一方、10連休を控えポジション調整した機関投資家や安値を狙う個人投資家の待機資金が膨らんでいる。6月に支払われる19年3月期末配当金の総額は約7兆円に達し、4月以降に発表された自社株買い総額は約3兆5600億円と昨年同期比倍増。信用取引残高は16年以来の低水準で、裁定買い残から売り残を差し引いたネット残高も過去最低水準。金利選好の高い資金が1部リートに向かうなど、需給状況は水面下で相当改善しタイト化している。米中貿易協議に進展がない間は短期的に調整余地を残すが、世界的景気後退と株価の下落トレンド入りにつながることはないと見る。

トヨタをはじめ東証一部でPBR1倍割れの銘柄が半数を超え、配当利回りを含め個別のバリュエーションでは割安感が顕著だ。ここからの下落局面は長期投資で絶好の買い場と見る。

相場展望

6月22日（土） 第2回 株式セミナー in 大阪

主催：（株）証券市場新聞社　申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで！

2019年6月22日（土）14:00～17:00　受付・開場13:00　参加料：無料　定員：50名

大化け特選3銘柄を教えます！

数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇

岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表）１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」約１万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。１カ月間の３銘柄合計パフォーマンス１５５％と断トツ。マーケットバンク設立以降、１７年以上にわたり安定した高パフォーマンスを継続する画期的運用手法とサービスを提供。

コラム「転ばぬ先のテクニカル」でお馴染み日々勇太郎さんも登壇

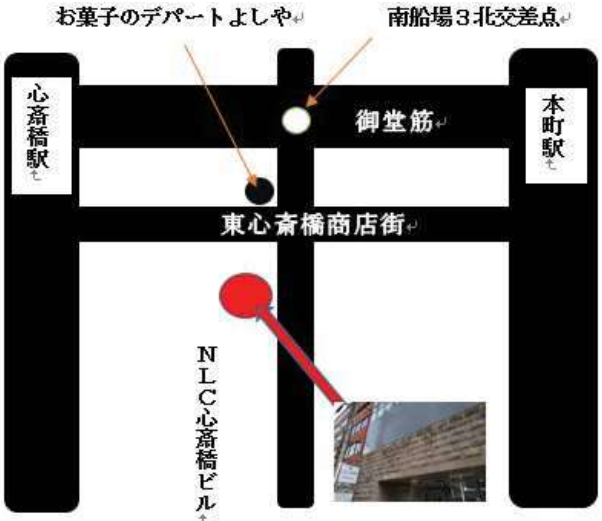
田島直人氏 国際テクニカルアナリスト連盟認定テクニカルアナリスト、高木証券で個人投資家向け資産アドバイザーを経て、、19年4月に独立系ファイナンシャルアドバイザー、大阪証券仲介（株）を立ち上げ移籍。

第1部　14:00～14:50　「転ばぬ先のテクニカル」日々勇太郎こと田島直人さんによるテクニカル解説

第2部　15:00～16:30「大阪サミットで相場が大転換」～サミット後に大幅高となる銘柄～　岡山憲史さんによる株式講演会

会場：ＮＬＣ心斎橋ビル　７階セミナールーム

〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-27



＊先着40名様にマーケットバンク発行のカレント経済ノート「主要経済指標」2019年版（定価1,000円）をプレゼント！

今週の活躍期待銘柄

アルファポリス（9467）

電子書籍積極刊行で急成長

アルファポリス（9467）は5月24日の安値2010円を底に3連騰、2491円まで買われた後は目先的な売りで一服しているが、調整一巡後は昨年12月13日高値2743円抜けから3000円を目指す動きを期待したい。

インターネット発出版の先駆的存在で、ネット上で話題となっている小説・漫画などのコンテンツを書籍化する事業で急成長している。ライトノベルは女性向け小説を中心に電子書籍が好調で、ライトノベルのヒット作の新規コミカライズなど積極的な刊行で漫画が急成長。前3月期は前の期比79・3％増と大幅営業増益となったのに続き、今期も前期比17・8％増の176億円と2ケタ増益を見込む。

電子書籍と親和性が高い漫画へ戦略的に経営資源を投入し、レンタル課金を含めて高成長が期待される。（と）

漫画へ戦略経営資源投入

イボキン（5699）

1Q営業利益進捗率は53％

イボキン（5699）は好決算発表を機に上値志向を強めてきた。米中摩擦が長期化するなかレアアース関連の側面にも目が向けられており、最高値3020円奪回から一段高へ進みそうだ。

19年12月期第1四半期は、連結売上高17億3300万円（前年同期比3・3％減）と微減収ながら、営業利益2億1400万円（同83・4％増）と利益が急拡大した。資源循環ニーズを背景に産業廃棄物処理受託と再生資源販売が15％超の増収で営業利益が3倍に急増、解体工事も大型案件の完工が重なり、増収で88％の大幅増益で着地した。通期計画の営業利益4億500万円（前期比44・4％増）に対する1Qの進捗率は52・8％に達し、大幅な利益上振れが期待できる状況。期末一括配当を30円（前期27円）への増配も予定。（さ）

レアアース関連としても関心

※チャートは日足

高野恭壽の株式情報 これでどゃ!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

高野恭壽（たかのやすひさ）**氏**　1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめＴＶ、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

調整売りはピーク！

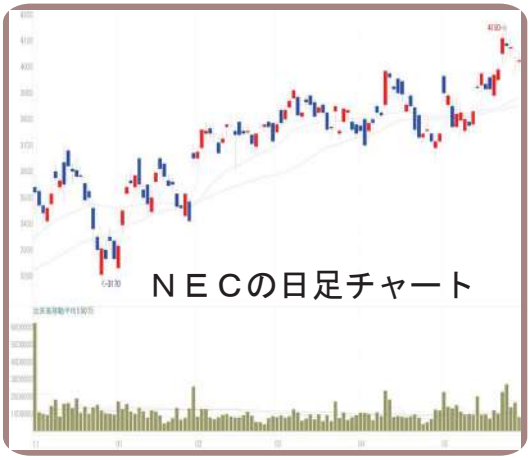
電機の下値を拾うべし

５月最終週の東京市場は日経平均で２万１０００円割れとなり、引き続き弱い動きになりました。表面上は米中の対立が続くことを懸念して売られたのですが、すでに、その材料は十分に認知されており、改めて売られる材料と決めつけるのもおかしいことになります。下落は月末整理の売りや来月の先物のメジャーＳＱを意識した処分売りによるものであり、それが大きく下げたと原因です。すでに、筆者は月末にかけては見送り姿勢を貫き、下落過程で銘柄を絞って拾うことを申し上げています。電機などは売り一巡後に戻す動きがみられるようになっており、売られっぱなしではありません。

一方、内需系などは２９日に下落が目立ち、日経平均を押し下げた原因になっていました。医薬品、小売り、食品、不動産などが値を消し、戻す動きが乏しい状況にありました。電機など外需系が抵抗していたことと対象的でした。電機は寄り付きから売られる傾向が強いのですが、その都度戻す動きが続いています。この抵抗の強さはいずれ上値を追うエネルギーになっていくと考えられ、月初めには期待できる動きになりそうです。

電機で強い動きをみせているのが**日立**（６５０１）や**ＮＥＣ**（６７０１）であり、この押し場面は拾うチャンスといえるでしょう。また、**三菱重工業**（７０１１）も寄り付きこそ売られたのですが、引けにはプラスとなっており先高を暗示していました。月初めにかけて更に上値を見込めそうです。その他、好業績見込みの**東レ**（３４０２）が自力を発揮し始めており、６月に一段高を見込めるものと思われます。**日産自動車**（７２０１）はルノーが欧州の有力ブランドメーカーとの統合することを決め、日産もそれに加わる可能性が出てきたために好感されました。まだ日産は態度を決めていませんが、世界の自動車業界の趨勢を考えると決断すべきでしょう。

アンジェス（４５６３）は高値圏でもみあいました。依然、上値指向にあり注目。**大紀アルミニウム工業所**（５７０２）今後の動きに期待。**テックファーム**（３６２５）が１３００円台に乗せてきました。ここを突破すれば、一段高の可能性が高いだけに、要注目です。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報これでどゃ!!
https://marketpress.jp/kabu-takano/
毎日情報を配信中！

星野三太郎の株街往来

～日本製ＯＳが世界の表舞台に立つ～

５月は１０連休明けから散々な相場だった。昨年１２月のような急降下ではなく、連休前にポジションを軽くしていた投資家が多かったのが、救いだろう。

ファーウェイへの制裁は昨年あたりから想定されていたが、実際に発動されると電子部品セクターには衝撃が走った。制裁されると部品は米国以外からの調達に切り替えてしまばいいという発想になるが、ウインドウズやアンドロイドというＯＳ（基本ソフト）の使用を止められてしまうと、どんなに技術が高くても身動きがとれなくなってしまう。それだけにＰＣとスマホで米国企業がほぼ独占している強味は絶大だ。

日本も国産ＯＳ「トロン」で１９８９年に純国産パソコンを普及させる動きがあったが、米国が悪名高い包括通商法スーパー３０１条の対象候補にしたことで、頓挫してしまった。ＯＳが世界を制するのだから、それを揺るがす存在は米国にとって敵でしかない。その「トロン」も組み込み用ＯＳとしては６割超のシェアを確保している。ＩｏＴで全てのモノが繋がる時代が到来すれば、縁の下の力持ち的存在だった日本製ＯＳが世界の表舞台に立つことになる。

企業レター

小澤征悦さんが開幕宣言！

ユニバーサル・クールジャパン2019サマー・ターム

USJ

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは、５月３１日からの「ユニバーサル・クールジャパン２０１９」サマー・タームのスタートに先駆け、５月３０日に開幕セレモニーとプレスプレビューを開催した。ハリウッド・エリアのシネマ４Ｄシアターで開催されたセレモニーには、国内での活躍にとどまらず、ハリウッドなど海外でも活躍し、まさに「世界」を舞台にする小澤征悦（おざわゆきよし）さんがサプライズで登場、サマー・タームの開始を待ち望んでいた作品ファン１００名と共に開幕を高らかに宣言した。

今から決戦に向かう武将を彷彿とさせる姿で再び壇上に登場した小澤さんは、期待と興奮で熱狂するファンとともに「ユニバーサル・クールジャパン２０１９サマー・ターム、『世紀の決戦』、開幕！」と高らかに宣言。会場には「進撃の巨人」「ゴジラ」「エヴァンゲリオン」「美少女戦士セーラームーン」の巨大ビジュアルたちがドラマチックな音楽と共に出現し、それぞれの作品のテーマカラーのコンフェティ（紙吹雪）が舞いあがり、開幕を華やかに祝った。

「世紀の決戦」を共通テーマにした３つの新アトラクション「進撃の巨人・ザ・リアル」、「ゴジラ対エヴァンゲリオン・ザ・リアル　４-Ｄ」、「美少女戦士セーラームーン・ザ・ミラクル　４-Ｄ　～ムーン・パレス編～」が期間限定で開催中。

世界を舞台に活躍する小澤征悦さんが開幕宣言！

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

日銀ETF買いの限界

株価意識した経営戦略が必要

日銀のETFの保有残高が3月末で24兆円を越えてきた。2010年12月より買い入れ、昨年3月末に比べ評価益は1兆2236億円少ない3兆9124億円となった。

昨年の3月末の日経平均は2万1455円30銭で、今年の3月末は2万1205円81銭。水準は変わっていないが、評価益が減ったのは平均取得価格が上昇したからだ。推計で昨年3月末は日経平均ベースで1万6971円であったが、今年の3月末には1万7851円となり、5月末には1万7959円になっていると思われる。

買い手が不在のなか、日銀のETF買いが下値の買い安心感を誘っているが、日銀もいつまでも買い続けるわけにはいかない。出口戦略を間違えると「株安、円安、債券安」のトリプル安の事態に見舞われる可能性もある。株価を日銀に頼るのではなく、企業収益がいい間に企業価値を高める自社株買いなどの株価を意識した経営戦略をもっと推し進めてもらいたいものだ。

株価は金曜日に直近の安値を下回り、2万0672円29銭（5月31日前場時点）まで下落した。位置的には上昇幅の0・5％押し（2万0655円処）、ボリンジャーバンドの▼2σ（2万0632円処）であり、止まりやすい水準である。今週は上値は重たい限の2万1330円処。上値トレンドラインは2万1200処に位置する。

下値は▼3σ（2万3100円処）、上昇幅の0・618％押しの2万2220円が抵抗ラインとなろう。

（ハチロク）

日経225先物日足チャート

当面のスケジュール

- 31日　米4月個人所得・個人支出(21:30)
- 1日　中国が米国からの輸入品600億ﾄﾞﾙ相当への関税率引き下げ
  4月コンビニエンスストア売上高(16:00)
- 3日　1-3月月期法人企業統計(8:50)
  5月自動車販売統計(14:00)
  米5月ISM製造業景況指数(23:00)
- 4日　5月マネタリーベース
  FRBは金融政策運営の見直しに向けて会議を開催(～5日シカゴ)
- 5日　米5月ADP雇用統計(21:15)
  米5月ISM非製造業景況指数(23:00)
  ベージュブック
  休場:マレーシア(～6日)
- 6日　ECB定例理事会(ドラギ総裁会見)
- 7日　4月家計調査、4月毎月勤労統計(8:30)
  4月景気動向指数(14:00)
  米5月雇用統計(21:30)

編集後記

行きつけの大衆理容店にどうにも下手な理容師がいる。避けてはいたが、先日は運悪くその人が担当になってしまった。料金が料金だけに、少々荒っぽくても次回の散髪まで我慢すればいいかと思っていたが、今回は特にひどい。左右の長さが極端に違い、風呂上がりにセットすると、右側が膨れ上がり、頭がひし形に歪んで見える。やり直してはもらったが、店を変えるかどうか迷っている。

通商問題長期化でいつまで経っても霧の晴れない東京市場、一旦、様子を見るのも一法かも知れない。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。